



唐獅子

東京地方はめつつきりと寒くなり、
沖縄の暖かさが恋しいばかりだ。だ
が、予備校講師の私にとっては、こ
の寒さが、大学入試の季節への招待
状のように思えてならない。

さて、受験というと、世間ではよ
く、「受験戦争・受験地獄」などと
揶揄されるのだが、はたして本当に
そうなのだろうか。

かつて、私の教え子で薬学部志望
の2浪目の女子生徒がいた。日頃か
らコツコツと勉強を重ねてはいるも
のの、どうも試験になると実力が発
揮できないようなのである。しか
し、そういうしながらもセンター試
験をなんとか乗り切り、国立2次試
験の願書出願も済ませた。ところが
私立大学は5校に不合格となり、国
立大学の前期、さらには2次募集の
私立大学2校も全滅であったのだ。
そして、その発表を見た帰りに予備
校にやって来た彼女は、講師室にい
た私を見かけるなり、声をあげて泣
きだしてしまい、「私は国籍が日本
じゃないんです。だから落とされて
いるんじゃないかと思うのです。も
う、頑張ったって意味がない」と
今まで心に留めておいたことを、と
うと口に出してしまっただ。

鳥光 宏

受験が教えてくれるもの

今はこの子に慰めを言う時期では
ないと思い、「そんな風にしか考え
られないなら、受験なんてやめな
さい。大学なんて行かなくても生きて
行けるから。泣くために来るのな
ら、二度と来ないでください。最後
の切符、国立後期試験の受験票が泣
いているよ」と突き放したのだっ
た。彼女はきよんとした顔をしな
がらも、「ごめんさい。私、何か
を忘れていたような気がします」と
いつて帰っていった。

春4月、彼女はあの最後の一枚の
切符で、第一志望だった国立大学の
桜並木の門をくぐったのだった。

受験シーズンは冬の寒い時期であ
り、そのために乗り越えなくてはな
らない試験は増えるだろう。だが、
その分、その先にある達成感・喜び
といったものをより深く感じ取れる
のではないかと思うのだ。

12月3日に那覇のジュンク堂書店
にて、親子で学ぶ「センター試験・
国語マル秘必勝法」という特別講演
を行う。受験フックニックはもちろん
だが、心構えや合格の喜びまで伝え
られたらと思うている。唐獅子読者
の皆さんとも、さらなる繋がり（つな
が）り（の）機
会となれば嬉しい。（講師・作家）